

No. 52 pp.902-933

25 - VI - 1988

寄 せ 蛾 記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI : Saitama Kontyū Danwakai

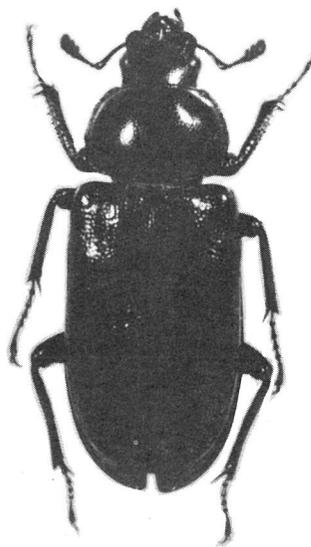


表 紙 の 昆 虫

ルリクワガタ *Platycerus delicatulus* LEWIS ♂♀

1987-XI-14 埼玉県秩父郡大滝村川又
築比地秀夫 採集 / 撮影

会員の佐々木和男氏から、同地にて、本種の産卵痕や成虫が観察されるとの連絡をいただき、佐々木氏の案内で朽木くずしに出かけた。おそらくブナと思われる朽木から、数頭の雌雄を掘り出すことができた。

.....【連載】

いるま蛾報 (3)

井上 寛

.....

前報ではフユシャク類を記録したが、第3報では、コバネナミシャク類で、今までにとれた種を列挙する。すべて成虫は年1回春に出現する。成虫の写真と幼虫の食樹については、蛾類大図鑑(1982)に出ているし、一部の幼虫は、蛾類生態図鑑(1987)に写真が示されているので、両書を参照されたい。

Trichopteryx hemana (Butler) シタコバネナミシャク

日本の最普通種で、1500m位の山地から平地まで分布する。4月上旬から下旬にかけて、当地ではたいへん多い。

Trichopteryx incerta Yazaki ウスオビコバネナミシャク

ホロタイプの産地が入間市仏子となっている種で(蝶と蛾 29:111, 1978)、当地ではまれである。今までに、1975年3月20日に2♂(うち1頭がホロタイプ)、1980年4月7日に1♀、1981年3月19日に1♂がとれただけである。他の産地として原記載で記録されたものと、私のコレクションにあるものは、次の通りである。山梨県大月市深城、静岡県小笠郡小笠山、岐阜県高山市原山、香川県高松市石清尾山。

Trichopteryx misera (Butler) クロシタコバネナミシャク

4月上旬から中旬にかけ、ほとんど毎年とれているが、1シーズンの飛来数は多くない。関東の平野部に多い蛾で、山地では余りとれない。

Trichopteryx terranea (Butler) チャオビコバネナミシャク

4月上旬から中旬にかけ、シタコバネナミシャクに次いで多産する。

Trichopteryx miracula Inoue ウスミドリコバネナミシャク

本種はたいへん少なく、1977年3月24日、1♀、1978年3月25日、1♂、1981年3月22日、1♂、1983年3月31日、1♀、の4頭しかとれていない。

Trichopteryx muscigera (Butler) オビコバナナミシヤク

本種は日本で長いあいだ知られていなかった珍種だが、私 (Tinea 10:13, 1976) が山梨県三ツ峠(1♂)を記録し、更に(Tinea 12:56, 1986)長野県上高地(2♀)を記録すると共に、雌雄交尾器を図示し、前種とごく近縁であることを述べた。吉本・矢崎(蛾類通信 137:182, 1986)は、長野県南安曇郡中ノ湯温泉と山梨県塩山市上萩原で、それぞれ1985年と1986年の6月中旬にとれたことを報告している。私はその後長野県下伊那郡釜沢で1987年6月19日に1♂をとっている。中部山地では、時期をあやまらなければ決して珍しいものではないだろう。私宅の灯火には1987年3月3日に1♀が飛来したのが、唯一の採集品である。山の個体群と里(平野部)のが、キマダラヒカゲの場合のように、2種にわかれるかどうかは、今後更に多くの標本を得た上で調べて見度い。私(1976)が書いたように、Butler, 1881(*muscigera*)のタイプ標本(♀)は「横浜」、Leech, 1897(*olivaria*)のそれ(♀)は「Pryerのコレクション」とだけしかわかっていない。何れも大英自然史博物館に所蔵されている。Leechの新種は、Pryer, 1884によって「富士山」と記録された標本かも知れないが、確証がない。人間市でもとれている位だから、100年以上前に、横浜市内でとれたと推定してもおかしくない。蛾類大図鑑 pl. 65:34 で示した雄は、やや変色しているが、新鮮なもの、前翅が美しいうす緑色である。

Esakiopteryx volitans (Butler) ウスベニスジナミシヤク

3月中旬から4月上旬までのあいだ、毎晩のように飛来する普通種である。

Trichopterigia costipunctaria Leech アカモンナミシヤク

たいへん少なく、1983年4月8日と1984年4月4日に、それぞれ1♀が飛来しただけである。

Epilobophora obscuraria (Leech) アトスジグロナミシヤク

5月中旬から6月上旬まで、時々まとれる程度で、余り多くない。

Otoplecta frigida (Butler) クロフシロナミシヤク

昼飛性なので、捕虫網をもって晴れた日に、近くの山林を歩けば、毎年採れると思うが、私が採集したのは1985年4月29日の1♀だけである。

埼玉県所沢市三ヶ島産半翅系昆虫類

牧 林 功 - 江 村 薫

埼玉昆虫談話会の1983年度の行事として、埼玉県所沢市三ヶ島の昆虫類の生息調査を行った。その記録は寄せ蛾記、増補第2号(1984)として発表してある。しかし、その調査報告書をまとめる際、半翅系昆虫類は間に合わなかった。そこで今回“所沢市三ヶ島の昆虫類調査報告”の続報として、標題の地域の半翅系昆虫類について報告する。

報告に当たり、松井安俊氏及び牧林功の採集したものは林正美氏に、壁谷氏及び江村薫の採集したものは立川周三氏に、それぞれ同定をお願いした。ご多忙中にもかかわらず、快く同定の労をとられた両氏に厚くお礼申し上げる。

半翅目 HEMIPTERA

ツチカメムシ科 Cydnidae

1. ツチカメムシ *Macroscytus japonensis* Scott

1ex. 2-VII-1983 牧林.

2. コツチカメムシ *M. fraterculus* Horvath

5exs. 3-IX-1983 牧林.

野沢(1978)によると、雑草根際に発見されるが少ない、という。

マルカメムシ科 Plataspidae

3. ヒメマルカメムシ *Coptosoma biguttulum* Motschulsky

1ex. 15-V-1983 江村.

野沢(1978)によれば、埼玉県では同属のマルカメムシ *C. punctatissimum* にくらべて個体数のはるかに少ないというが、今回の調査ではマルカメムシは得られず、少ないというヒメマルカメムシだけが得られた。

カメムシ科 Pentatomidae

4. アカスジキンカメムシ *Poecilocoris lewisi* Distant

1ex. 5-VII-1983 江村.

5. ウズラカメムシ *Aelia fieberi* Scott
1ex. 5-VI-1983 江村.
6. シラホシカメムシ *Eysarcoris ventralis* Westwood
1ex. 2-VII-1983 牧林.
7. マルシラホシカメムシ *E. guttiger* Thunberg
1ex. 5-VI-1983 江村.
8. トゲカメムシ *Carbula humerigera* Uhler
2exs. 4-IX-1983 江村.
9. クサギカメムシ *Halyomorpha mista* Uhler
2exs. 2-VII-1983 牧林. ; 2exs. 3-IX-1983 牧林.
10. アオクサカメムシ *Nezara antennata* Scott
1ex. 5-VIII-1983 牧林.
11. チャバネアオカメムシ *Plautia crossata stali* Scott
1ex. 5-VI-1983 江村. ; 12exs. 2-VII-1983 牧林.
1ex. 7-VII-1983 江村. ; 8exs. 5-VIII-1983 牧林.
7exs. 3-IX-1983 牧林.
12. ツノアオカメムシ *Pentatoma japonica* Distant
1ex. 5-VIII-1983 牧林.

野沢(1978)によれば、埼玉県では大滝村を中心に山地だけに発見され、個体数は多くないという。三ヶ島での記録は貴重なものと思われる。

ツノカメムシ科 *Acanthosomidae*

13. エサキモンキツノカメムシ *Sastragala esakii* Hasegawa
1ex. 2-VII-1983 牧林.
14. アオモンツノカメムシ *Dichobothrium nubilum* Dallas
1ex. 5-VIII-1983 牧林.
野沢(1978)によれば、秩父地方の山地を中心に分布していて、個体数は少ないという。山地性のものようだ。
15. ヒメツノカメムシ *Elasmucha putoni* Scott
1ex. 15-V-1983 江村.
野沢(1978)によると山地性の種である。

エビイロカメムシ科 *Phyllocephalidae*

16. エビイロカメムシ *Conopsis affinis* Uhier
1ex. 4-IX-1983 壁谷.

クヌギカメムシ科 *Urostylidae*

17. ヘラクヌギカメムシ *Urostylis annulicornis* Scott
4exs. 2-VII-1983 牧林.

野沢(1978)によれば、埼玉県内では山地を中心に個体数は少ないという。

18. クヌギカメムシ *U. westwoodi* Scott
1ex. 5-VIII-1983 牧林. ; 1ex. 3-IX-1983 牧林.
野沢(1978)のリストには欠如している種。日浦(1977)によれば、腹部気門が黒い
ことで前種およびサジクヌギカメムシ *U. striicornis* と区別される。

ヘリカメムシ科 *Coreidae*

19. オオヘリカメムシ *Molipteryx fuliginosa* Uhier
1ex. (幼生). 4-IX-1983 江村.
20. ハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus dilatatus* Horvath
1ex. 4-IX-1983 壁谷. ; 2exs. 4-IX-1983 江村.
21. ホシハラビロヘリカメムシ *H. unipunctatus* Thunberg
4exs. 3-IX-1983 牧林.
22. ツマキヘリカメムシ *Hygia opaca* Uhier
1ex. 5-VI-1983 江村.
23. ハリカメムシ *Cletus rusticus* Stål
1ex. 2-VII-1983 牧林. ; 1ex. 19-VII-1983 牧林.
4exs. 3-IX-1983 牧林. ; 1ex. 4-IX-1983 江村.

ヒメヘリカメムシ科 *Rhopalidae*

24. アカヒメヘリカメムシ *Rhopalus maculatus* Fieber
1ex. 2-VII-1983 牧林.
25. ブチヒメヘリカメムシ *Stictopleurus crassicornis* Linne
1ex. 2-VII-1983 牧林.

26. ヒメヘリカメムシの1種 *Liorhyssus* sp.

1ex. 30-X-1983 江村.

スカシヒメヘリカメムシ *L. hyalinus*かと思われたが、種の同定に至らなかった。

ホソヘリカメムシ科 *Alydidae*

27. ホソヘリカメムシ *Riptortus clavatus* Thunberg

2exs. 5-VI-1983 江村. ; 1ex. 19-VII-1983 牧林.

2exs. 3-IX-1983 牧林.

28. クモヘリカメムシ *Leptocorixa corbetti* China

1ex. 5-VIII-1983 牧林.

ホシカメムシ科 *Ryrocoridae*

29. クロホシカメムシ *Ryrocoris sinuaticollis* Reuter

1♀ 5-VIII-1983 牧林. ; 1♀ 3-IX-1983 牧林.

ナガカメムシ科 *Lygaeidae*

30. シロヘリナガカメムシ *Graptopeltus japonicus* Stål

2♀♀ 3-IX-1983 牧林.

31. モンシロナガカメムシ *G. albomaculatus* (Scott)

2♂♂ 2♀♀ 2-VII-1983 牧林. ; 1♂ 3-IX-1983 牧林.

32. チャイロナガカメムシ *Neolethaeus dallasi* (Scott)

1♀ 2-VII-1983 牧林.

33. セスジナガカメムシ *Arocatus melanostomus* Scott

1ex. 19-VII-1983 牧林.

34. コバネナガカメムシの1種. *Dimorphopterus* sp.

1ex. 15-V-1983 江村.

立川氏の江村への私信によると、日本では数個体目の記録と考えられ、今後の検討が必要とのこと。

35. オオメナガカメムシ *Geocoris varius* Uhler

1ex. 15-V-1983 江村.

36. クロスジヒゲナガカメムシ *Pachygrontha antennata antennata* Uhler

1♂ 5-VI-1983 牧林.

6exs. (うち3exs. は幼生) 24-VII-1983 江村.

37. ヒゲナガカメムシの1種
- P. sp.*

lex. 24-VII-1983 江村. ; lex. 30-X-1983 江村.

38. キベリヒョウタンナガカメムシ
- Pachybrachius lateralis*
- (Scott)

1♀ 2-VII-1983 牧林. ; 1♀ 5-VIII-1983 牧林.

1♂ 6♀♀ 5-IX-1983 牧林.

同定した林氏によると、これには別種が混じっているかも知れないが、現段階ではこのように処置するのが妥当であろうという。

39. ヒメナガカメムシの1種.
- Nysius sp.*

1♀ 3-IX-1983 牧林.

40. コバネヒョウタンナガカメムシ
- Togo hemiptera*
- Scott

lex. 24-VII-1983 江村.

マキバサシガメ科 *Nabisidae*

41. ハネナガマキバサシガメ
- Nabis stenoferus*
- Hsiao

7exs. 2-VII-1983 牧林. ; 8exs. 5-VIII-1983 牧林.

9exs. 3-IX-1983 牧林.

サシガメ科 *Reduviidae*

42. ホソサシガメ
- Pygolampis cognata*
- Horvath

lex. 3-IX-1983 牧林.

43. オオトビサシガメ
- Isyndus obscurus*
- Dallas

lex. 30-X-1983 壁谷.

日本最大のサシガメである。野沢(1978)によると、県内では小川町、鎌北湖以西の山地での記録がある。今回の記録は珍しいものの一つ。

メクラカメムシ科 *Miridae*

44. ヒョウタンメクラガメ
- Pilophorus setulosus*
- Horvath

3♀♀ 5-VIII-1983 牧林.

野沢(1978)によれば、埼玉県では大里郡川本から記録がある。

45. ブチヒゲクロメクラガメ
- Adelphocoris triannulatus*
- (Stal)

3♂♂ 1♀ 2-VII-1983 牧林.

13♂♂ 7♀♀ 5-VIII-1983 牧林.

1♀ 3-IX-1983 牧林.

46. クロメクラガメの1種. *A. sp.*
1♀ 5-VI-1983 牧林. ; 2♂♂ 2-VII-1983 牧林.
47. ハナグロミドリメクラガメ *Lygus (Aplygus) nigronasulus (Stal)*
1♂ 5-VIII-1983 牧林.
48. マダラメクラガメの1種. *Phytocoris sp. 1*
5♂♂ 5-VIII-1983 牧林. ; 1♂ 3-IX-1983 牧林.
49. マダラメクラガメの1種. *P. sp. 2*
1♂ 1♀ 5-IX-1983 牧林.
50. オオクロセダカメクラガメ *Proboscydocoris malayus Reuter*
1♀ 2-VII-1983 牧林. ; 5♀♀ 3-IX-1983 牧林.
51. ヒメセダカメクラガメ *Charagochilus angusticollis Linnavuori*
1♂ 1♀ 2-VII-1983 牧林.
52. アカミヤクメクラカメムシ *Stenodema rubrinerve Horvath*
1ex. 19-VII-1983 牧林.

アメンボ科 *Gerridae*

53. シマアメンボ *Metrocoris histrio B. White*
1ex. 19-VII-1983 牧林. ; 6exs. 3-IX-1983 牧林.
54. アメンボ *Gerris paludum insularis Motschulsky*
3exs. 3-IX-1983 牧林.

イトアメンボ科 *Hydrometridae*

55. イトアメンボ *Hydrometra albolineata Scott*
1ex. 5-VIII-1983 牧林.

マツモムシ科 *Notonectidae*

56. マツモムシ *Notonecta triguttata Motschulsky*
1ex. 5-VI-1983 壁谷.

県内平野部では採集することの困難になった水生半翅類。

同 翅 目 H O M O P T E R A

セミ科 Cicadidae

1. アブラゼミ *Graptopsaltria nigrofuscata* Motschulsky
5exs. (脱殻) 3-IX-1983 牧林.
同時に多数の鳴き声も聞く。
2. ミンミンゼミ *Oncotympana macutaticollis* Motschulsky
1ex. (脱殻) 3-IX-1983 牧林.
同時に鳴き声も耳にする。
3. ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi* Fabricius
1ex. 24-VII-1983 江村.
鳴き声 2-VII-1983 牧林.
鳴き声 19-VII-1983 牧林.
4. ヒグラシ *Tanna japonensis japonensis* Distant
2exs. (脱殻) 19-VII-1983 牧林.
鳴き声 19-VII-1983 牧林.
鳴き声 24-VII-1983 江村.
5. ハルゼミ *Terpnosia vacua* Olivier
1♀ 4-VI-1983 松井(安).
6. ツクツクボウシ *Meimuna opalifera* Walker
鳴き声 3-IX-1983 牧林.

ツノゼミ科 Membracidae

7. トビイロツノゼミ *Machaerotypus sibiricus* Lethierry
3exs. (幼生). 15-V-1983 江村.
8. オビマルツノゼミ *Gargara katoi* Metcalf et Wade
2exs. 5-VI-1983 松井(安).
野沢(1978)のリストには未記録の種。

アワフキムシ科 Cercopidae

9. クロスジアワフキ *Yezophora vittata* Matsumura
1ex. 4-IX-1983 江村.
野沢(1978)のリストには、三峰山のみの記録しかない。
10. モンキアワフキ *Y. flavomaculata* Matsumura
3exs. 2-VII-1983 牧林.

11. ホシアワフキ *Atuphora stictica* Matsumura
1ex. 19-VII-1983 牧林.
12. シロオビアワフキ *Obiphora intermedia* Uhler
4exs. 2-VII-1983 牧林. ; 1ex. 4-IX-1983 江村.
13. ヒメモンキアワフキ *Tobiphora rugosa* Matsumura
1ex. 30-X-1983 壁谷.
14. ミヤマアワフキの1種.
1ex. 4-IX-1983 江村.
コミヤマアワフキ *Peucoptyelus matsumurai* Metcaif et Horton とミヤマアワフキ *Ainoptyelus nigroscutellatus* との区別が困難で種の同定ができなかった。
15. ハマベニアワフキ *Petaphora maritima* Matsumura
2exs. 4-IX-1983 江村.
野沢(1978)には未記録の種。
16. オカダアワフキ *Euclovia okadai* Matsumura
2exs. 14-IV-1984 牧林. ; 1ex. 24-VII-1983 江村.
3exs. 4-IX-1983 江村.
野沢(1978)には未記録。比較的珍しい種。

コガシラアワフキ科 *Tomaspididae*

17. コガシラアワフキ *Euscartopsis assimilis* Uhler
1ex. 19-VII-1983 牧林.
山地性の種で平地では珍しい。

ヨコバイ科 *Cicadellidae*

ミミズク亜科 *Ledrinae*

18. ミミズク *Ledra auditura* Walker
1ex. 19-VII-1983 牧林.

オオヨコバイ亜科 *Tettigellinae*

19. ツマグロオオヨコバイ *Bothrogonia japonica* Ishihara
1ex. 4-IX-1983 江村.
20. オオヨコバイ *Tettigella viridis* Linne
1ex. 4-V-1983 松井. ; 1ex. 5-VI-1983 江村.
1ex. 19-VII-1983 牧林. ; 26exs. 5-VIII-1983 牧林.
1ex. 3-IX-1983 牧林. ; 1ex. 30-X-1983 江村.

アオズキンヨコバイ亜科 *Jassiniae*

21. アオズキンヨコバイ
- Batracomorphus mundus*
- (Uhler)

22exs. 3-IX-1983 牧林.

野沢(1978)には未記録のもの。

22. ホシアオズキンヨコバイ
- B. stigmaticus*
- (Matsumura)

1ex. 2-VII-1983 牧林.

野沢(1978)には未記録の種。

フクロウヨコバイ亜科 *Hecaliinae*

23. サジヨコバイ
- Hecalus prasinus*
- (Matsumura)

1ex. 5-VIII-1983 牧林.

野沢(1978)には記録のない種。

ヨコバイ亜科 *Deltoccephalinae*

24. シロミヤクイチモンジヨコバイ
- Paramesus albinervosus*
- Matsumura

2exs. 3-IX-1983 牧林.

25. ヒメツメヨコバイ
- Phlagotettix cyclops*
- (Mulsant et Rey)

1ex. 2-VII-1983 牧林. ; 1ex. 3-IX-1983 牧林.

26. マダラヨコバイ
- Psammotettix striatus*
- (Linné)

1♂ 1♀ 5-VI-1983 松井. ; 1♂ 2-VII-1983 牧林.

野沢(1978)には未記録の種。

27. イネマダラヨコバイ
- Recilia oryzae*
- Matsumura

1♂ 5-IX-1983 牧林.

野沢(1978)には未記録。

ヒシウンカ科 *Cixiidae*

28. イボタヒシウンカ
- Kuvana ligustri*
- Matsumura

4♂♂ 5♀♀ 5-VIII-1983 牧林.

野沢(1978)には記録のない種。

ウンカ科 *Delphacidae*

29. クワヤマウンカ
- Kakuna kuwayamae*
- Matsumura

1♂ 2♀♀ 2-VII-1983 牧林.

1♂ 2♀♀ 19-VII-1983 牧林.

30. ナガラガワウンカ
- Nagara nagaragawana*
- Matsumura

1♀ 3-IX-1983 牧林.

31. ホオグロウンカ *Laoterthrona nigrigena* (Matsumura et Ishihara)
1♀ 2-VII-1983 牧林.
32. エゾナガウンカ *Stenocranus matsumurai* Metcalf
1♂ 5-VIII-1983 牧林.
33. トビイロウンカ *Nilaparvata lugens* Stal
1♂. 2-VII-1983 牧林.
34. トビイロウンカモドキ *N. bakeri* (Muir)
1♀. 5-VIII-1983 牧林. ; 1♂. 3-IX-1983 牧林.
35. セジロウンカ *Sogatella furcifera* Horvath
4exs. 3-IX-1983 牧林.

野沢(1978)のウンカ科の記録は僅か4種であるので、29~32, 34の種は未記録のものである。

アオバハゴロモ科 *F l a t i d a e*

36. アオバハゴロモ *Geisha distinctissima* Walker
1ex. 5-VIII-1983 牧林. ; 1ex. 3-IX-1983 牧林.
1ex. 4-IX-1983 江村.
37. トビイロハゴロモ *Mimophantia maritima* Matsumura
1ex. 4-IX-1983 江村.

野沢(1978)には未記録の種。

ハゴロモ科 *R i c a n i i d a e*

38. ベッコウハゴロモ *Ricania japonica* Melichar
1ex. 3-IX-1983 牧林. ; 1ex. 4-IX-1983 江村.

参 考 文 献

野 沢 雅 美 (1978) 埼玉の半翅類, 埼玉県動物誌 pp. 355~382.

(まきばやし いさお 〒330 大宮市天沼町 2-864)

(えむら かおる 〒346 久喜市東 3-32-18)

.....

アキアカネの垂直分布に規則性はあるか？

石澤 直也

.....

本誌No. 51で、アキアカネの雌雄の重心に関しての形態差について述べたが、少しくどい言い回しで判り難い点があったと思われる。端的に言うと、雌は胸部が小さく、成熟すると腹部の重量が増加する。それに見合うように前翅、後翅を大きくしておけばよいが、胸部が小さいために前翅と後翅の基部の間が狭く、前翅の幅には限度があり、後翅の幅を大きくしてある。この広くなった部分は、航空機で言うところの“フラップ”の役目をして翼面荷重を軽減して揚力の増大を図っているわけである。

さて、アキアカネの雌の胸部は雄に比べて小さく重量は重く、かつ翼面荷重も雄よりも大きいことが調査の結果判ったが、翼面荷重が大きいと飛翔開始の際に多くのエネルギーを要することになり、また胸部体温を高く保つ必要が生ずる。アメリカギンヤンマでは、実際に気温が低い時は雌の胸部体温が雄のよりも高いことが確かめられているが(May, 1976)これは内温性のトンボで、アキアカネのような“perchers”ではどうなっているのだろうか。アキアカネは未熟な段階を標高の高い処で過ごす、成熟するに従って体重が増加し、雌では小さな胸部に負荷がかかるので、雌は気温の高いより標高の低いところへ生活圏の標高を下げることによって、エネルギーの損失を避けているのではないだろうかという仮説を立ててみた。

それで、1986年同様入笠山で、標高を1,450m(沢入り登山口)、1,750m(鐘打平)、1,950m(山頂付近)の3ブロックに分けて、各々の地で雄雌各50頭を目処にアキアカネの個体の体重と腹長を計測した。調査時期は1987年8月8~9日、8月22~24日、9月14日を全部で3回行った。

1. 調査の結果

8月の上旬の段階では、雌では標高の高い(つまり気温は低い)処のものから低い方へ順番に平均体重は増加していた。雄でも沢入りのものが平均体重が一番重く、鐘打平のが一番軽かった。腹長では、雌雄共に山頂の個体が一番長く、次が沢入りで、鐘打平の個体が一番短かった。(表-1 参照)

成熟個体の割合は(腹部が赤化したもの、または体重が0.2g以上のものを一応成熟

したもののみならず)、雌は沢入りが18.6%、鐘打平が23.9%、山頂が11.8%、雄は沢入りが20.7%、鐘打平2.3%、山頂が10.2%。一方、未熟個体(体重0.13g以下)では、雌は山頂部分が54.9%、鐘打平34.8%、沢入り28.8%と山頂部分に未熟個体が多かった。

体重と腹長の関係を回帰分析すると、沢入りの個体の相関係数が、{雌0.19 雄0.4}で、山頂が{雌0.13 雄0.24}、鐘打平が{雌0.09 雄0.25}と、標高の低い処が高かった。

8月下旬では、雌の平均体重は山頂のものが一番重く(0.20g)、あとの2ヶ所は同じ(0.18g)。雄では、沢入りのものが一番重く(0.18g)、標高が高くなるにつれて軽くなっていった。腹長でも体重と同様な傾向を示していた。体重と腹長の相関度も雌では沢入り{0.37}、鐘打平{0.41}、山頂{0.41}、雄は沢入り{0.42}、鐘打平{0.43}、山頂{0.54}で、標高の高いほうが相関度が高くなった。

8月22日の調査の時は、ちょうど寒冷前線が通過中で、アキアカネは沢入りの下、標高1,200m位まで下りているのが見られた。

8月23日は、山頂部の個体の採集にあたったが、あいにくの霧雨で午後1時の気温は山頂で16℃と低く、南斜面の落葉松林の中でもアキアカネは見られず、山頂から高さにして50m程下でやっと灌木のなかに翅を休めている個体が見られた。薄日がさして下方から上へ追い上げて、アキアカネは直ぐに下へ引き返す個体がかかり見られた。温度差には敏感のように見えた。

8月24日には標高950mの富士見町の中まで下りて電線に止まっているのが見られた。

9月中旬では、沢入りでは個体数が少なくデータは採れず、他の地点でも雄のデータは少なかった。雌の平均体重は鐘打平のものが0.24g、山頂のものが0.23g、雄は、鐘打平のものが0.23g、山頂では0.22g。腹長では鐘打平の雌が27.0mm、雄は26.9mm、山頂の個体では、雌が27.2mm、雄27.0mmで、相関度では鐘打平の方が雌雄共に高かった。ここでは14日当日は快晴で、日中の気温も23~24℃で多数の個体が飛翔していた。

ここで相関度または相関係数について説明すると、もし同一地域で同時期に羽化した個体群であれば、未成熟から成熟段階まで個体差があるとはいえほぼ同じような発育をするから、どの時点で相関をとってもほぼ同じ係数になるが、アキアカネの避暑地ではさまざまな地域から集まったと思われる複合集団であるから、避暑に集まった当初の時期においては相関度は低い筈であり、事実これは確かめられた。しかし日を追って相関度は増加したが、皮肉にも雌より雄の方で相関度の増加が見られ、一方、標高の低い処の相関度は余り増加しなかった。

表一 採集地点別データ *印は 8月24日の1,450m~1,100mでのデータ

調査時期	地点	♂			♀		
		8月上旬	8月下旬	9月中旬	8月上旬	8月下旬	9月中旬
個体数	A	29	40	*28	59	60	*37
	B	43	31	6	46	70	39
	C	49	23	12	51	54	40
性比%	A	33.0	40.0	*43.0	67.0	60.0	*57.0
	B	48.3	30.7	13.3	51.7	69.1	86.7
	C	49.0	29.9	23.1	51.0	70.1	76.9
成熟個体 割合%	A	20.7	55.0	*32.1	18.6	43.3	*51.0
	B	2.3	41.9	85.7	23.9	45.7	100.0
	C	10.2	52.2	100.0	11.8	53.7	100.0
計		9.9	50.0	94.7	17.9	47.3	100.0
未熟個体 割合%	A	34.5	17.5	*21.4	28.8	21.7	*13.5
	B	65.1	22.6	14.3	34.8	22.9	—
	C	42.9	30.4	—	54.9	11.1	—
平均腹長 mm	A	26.5	26.3	*26.1	26.3	26.5	*26.6
	B	26.2	26.5	26.9	26.3	26.1	27.0
	C	26.7	26.5	27.0	26.7	26.6	27.2
成熟個体 平均腹長 mm	A	27.7	26.8	*26.5	27.0	27.0	*27.2
	B	28.1	27.1	27.3	26.4	27.0	27.0
	C	27.5	27.0	27.0	27.2	27.3	27.2
平均体重 g	A	0.15	0.18	*0.17	0.16	0.18	*0.19
	B	0.13	0.18	0.23	0.16	0.18	0.24
	C	0.15	0.17	0.22	0.14	0.20	0.23
成熟個体 平均体重 mm	A	0.22	0.21	*0.20	0.23	0.23	*0.22
	B	0.25	0.22	0.21	0.23	0.23	0.24
	C	0.22	0.21	0.22	0.23	0.24	0.23
相関度 r*r	A	0.40	0.42	*0.12	0.19	0.37	*0.42
	B	0.25	0.43	0.87	0.09	0.41	0.47
	C	0.24	0.54	0.63	0.13	0.41	0.38

注 A: 沢入り、B: 鐘打平、C: 山頂、相関度: 腹長に対する体重の相関度

これは、雌では充分生育していても、卵の形成の有無によって体重にかなりの差が出てくることによるものと推定される。

次に各地点、各時期における成熟個体の大きさと割合について触れてみよう。

既に述べたように、成熟個体の基準（体重が0.2g以上または腹部が赤化しているものという）によって成熟個体を分別すると、成熟個体の腹長が総平均よりも長く（0.6～1.9mm）になっていた。これは大型の個体は早く成熟することを物語っている。羽化期が早いものは大型の個体が多いとは言い切れないが、でもヒメアカネでは羽化当初は大型の個体が多かったことからすれば、そうなのかもしれない。成熟個体の割合も8月上旬は、沢入り（雌18.6%、雄20.7%）、鐘打平（雌23.9%、雄2.3%）、山頂（雌11.8%、雄10.2%）、8月下旬では、沢入り（雌43.3%、雄55%）、鐘打平（雌45.7%、雄41.9%）、山頂（雌53.7%、雄52.2%）で標高の高い処の方が割合が高かった。これは当初山頂部分の個体群の腹長平均が最長だったから、大型の個体は早く成熟するということであれば当然のことであるが、当初の仮説からすると、より低い地点の成熟個体数が増加する筈だから、これは仮説を否定することになる。

また一方、未熟個体の腹長平均は遅くなるにつれて雌雄共に小型化する傾向にあった。

2. 考 察

以上のデータからは当初の仮説（雌は成熟するにつれて標高を下げるという）を証明できるものは得られなかったので、今度はアキアカネの体温の特性について分析してみた。

実験日は1987年8月23日で、白色の発泡スチロール板の上にアキアカネを固定し、75Wハロゲンランプを高さ12.5cmの位置から照射して、胸部体温の上昇速度を測定した。体温の測定にはKタイプの熱電対φ0.05mmとジョンフレイク社製のデジタル温度計を使用した。

これでは、雄は小型の個体ほど、体重が軽いほど体温上昇速度が速くなったが、雌では未熟のものは体温上昇が速いが、雄よりは遅く、また成熟してくると体温の上昇が幾分速まるという傾向があることが判った。また雌は翅にスモーク斑があるものは、ないものよりも体温上昇が速い傾向も見出せた。これらのデータを多重回帰分析して式に著すと次の通りになる。

気温22℃、湿度75%RHで、当初胸部体温25℃として1分後の体温

雌：相関係数 0.66 n = 5 胸部体温 = (-34.4 × 体重) + (0.4 × 腹長) + 28.1

雄：相関係数 0.93 n = 19 胸部体温 = (-9.7 × 体重) + (-2.5 × 腹長) + 102

表2. 雌雄の上昇体温の比較 (条件は上記と同じ)

	体重 0.13g, 腹長 26mm	体重 0.22g, 腹長 27mm
雌	34.0°C	31.3°C
雄	35.7°C	32.4°C

上記から、雌は雄よりも体温上昇速度が遅いことがわかる。相関係数が低いのは、成熟すると翅にスモーク斑が出て、これが体温を上昇させる方に作用して、体温の上昇速度が雄と同様には遅くならないからと思われる。これは、体重が重く大型の個体では雄との体温差が縮小していることで判る。

また野外 (主として鐘打平で) でアキアカネの胸部体温と気温の関係も調べて見た。その結果は実験データを裏付けるものだった。つまり同一気温では雄の方が雌よりも胸部体温が高かった。これらのデータを回帰分析して次の関係式を得た (表3及び図参照)。

雌: 相関係数 0.74 n = 75 胸部体温 = (1.7 × 気温) - 8.0

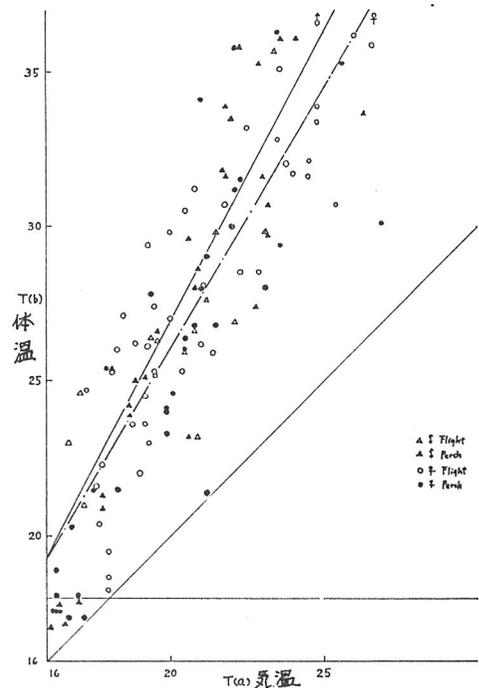
雄: 相関係数 0.80 n = 38 胸部体温 = (1.9 × 気温) - 11.2

表3. 気温に対する胸部体温の推定値

気温	30°C	25°C	20°C	18°C
雌の体温	43.0	34.5	26.0	23.0
雄の体温	45.8	36.3	26.8	23.0

雄は雌よりも体温が高くなりやすいということは、避暑に来てもお雄は体温が上がり過ぎないようにしてなければならないということである。これは採集してみると判ることであるが、雄の数は雌よりもはるかに少ない。今回の調査でも雄が比較的多く採れたのは山頂付近の落葉松林の縁でだった。このことは、雄は未熟の段階では、より標高の高い処で、しかも気温の高い日中は木陰にいることが多いことを表すと言えよう。十文字学園の津吹教諭の話では、アキアカネの雄は採れる時間帯があり、朝方が多いという。やはりこれも上記の式を裏付けることであろう。

アキアカネの体温と気温



一方雌は、雄よりも体温が低いので、積極的に日向へ進出して体温の維持に務めている個体が多く見られ、これはヒメアカネ等でも同様である。

また気温が高くなると、アキアカネは逆立ち行動をとるが、この開始温度を8月9日に実験によって確かめたところ、胸部体温は雄が32.5℃で雌は34.1℃。雄の方が低い温度で逆立ち行動を起こし、高温になるのを回避するのが早いことがわかった。もっともこれは成熟するに従って逆立ち開始温度は高くなっていくが。ヒメアカネではこれが、もっと高い温度の35.6℃で、アキアカネよりは高温に強いことがわかる。

余談であるが、もしアキアカネが平地で真夏を過ごすとして、気温が30℃の場合を仮定すると、この気温を上記の式に代入すると、雄の胸部体温は45℃を越えてしまい、雌の場合でも43℃位になるから、これではアキアカネは低標高地域で真夏を過ごすことはできない。実際に上記の逆立ち行動の実験中に、体重が0.06gの未熟♀では胸部体温が37.7℃で腹部を曲げ死亡、ほぼ即死状態だった。

気温が25℃だと雄の胸部体温は36.3℃、雌のは34.5℃で、アキアカネの活動にとって丁度良い気温になる。実際に標高1,000mmの富士見町で、9月の15日に日中の気温が25～26℃でアキアカネがウスバキトンボと見間違ふほどゆったりと飛び回っているのが観察された。しかし、真夏では輻射熱の強さを考慮にいれば、未成熟な段階ではもう少し低い温度の方が安全であろうから、暖地では海拔が1,500m位が下限なのであろう。しかし、北国では気温そのものがあまり高くないから高度はあまりとる必要はない。

以上述べてきたことから、当初立てた仮説が何故証明できなかったかが、おぼろげながら推理することができる。

雌では8月上旬までは沢入りのものが平均して成育が進んでいたが、下旬になると、山頂の個体が成育しており、8月24日の寒冷前線の通過後は沢入りより下方の個体は山頂部分よりも小型化しているのがみてとれる。つまり、寒冷前線の影響で気温が低下して、小型の個体が多く下山したと推定されるのである。

小型の個体は体温上昇が速いが、体重に対する体表面積が相対的に大きく、気温の影響を大型の個体よりも多く受けるといえるのではないか。裏を返せば、気温が低下した場合、体温の低下も速いのではないかと考えられる。一方大型の個体は体温の維持能力（翅のスモーク斑が強くなる等）がつき、気温の低下にある程度耐えられるようになるため、高標高地に残るのではないかとと思われる。これらの個体が9月半ばまで山頂部分や鐘打平で見られたものと思う。これらには翅がボロボロで、腹部は泥で汚れた個体もかなり混じっているのが見られた。

この傾向は雄にもあてはまり、平均体重も軽く、腹長も短い小型の個体が沢入りの下方で採集されている。

こうしてみると、アキアカネは成熟するから下山して里へ出現するというのではなく、各個体が最適気温（多分25~26℃前後）を求めて移動するのではないかと思われるのである。それでないといふ9月半ばまで山頂部分に残っている多くのより大型の成熟した雌についての説明がつかないことになる。またこの時期の集団に雄は少なく、これらの雌は“アブレ雌”といった方が適当である。

この“アブレ雌”については、秋が深まるにつれどのようになるのか興味のあるところである。秦和寿氏の談話では、本人は雌雄の区別はしなかったとのことだったが、美ヶ原の三城付近の登山道周辺でかなりのアキアカネの死骸を目撃したとのことである。また、11月に入って山麓の谷戸水田に出現するアキアカネについて、平野部の生き残りの個体の集団ではないかと推定している記述（田口正男・渡辺守 1986）もあるが、これらは、むしろ遅くまで山に残っていた個体が寒さを避けるために山麓に下りて来たものと推定したほうが妥当なのでないか。平野部で産卵した雌は雄よりも寿命が短い（田口正男・渡辺守 1984）のだから、山麓へ帰ることには無理があるように思える。

3. 結 論

アキアカネの雌は成熟して標高を下げるのではなく、むしろ成熟すると耐寒性が増加して山地に残る個体があり、大型の個体にそういう傾向があると推定される。

下山するきっかけは、寒冷前線等急激な気温の変化で、小型の個体はその影響を受けるものが多いように見える。

雌は一般的には雄よりは高温に強く、避暑地でも積極的に日向へ進出して体温の維持に務める傾向にあり、反対に雄は木陰等を利用して体温の上昇を避ける傾向にある。またアキアカネは、他のアカネ属、ヒメアカネと比較して未熟時期に体温が上昇しやすいため、盛夏を高原等で過ごすのが、移動は成熟個体の産卵目的以外は、最適活動温度の選好によるものと思われる。

大型の個体は早く成熟する傾向があり、山地に残る雌に大型の個体が多く、これらは“アブレ雌”の状態で当該地で終わるものもあると推定される他、秋遅くなって山麓に下りる可能性もあると推定される。

以上からアキアカネの垂直分布には規則性はあると推定される。

4. お わ り に

この調査は1987年の1回であり、また調査の個体数も各地区雌雄各50頭前後で少なく、これで結論を出すには未だ早いと思える。しかし、体温についてのデータはヒメアカネとの比較からもある程度妥当と言えよう。今後も継続調査することによって更に興味深いデータも得られると思う。特に翅のスモーク斑についてもっと多くのデータで検証

し、また問題の“アブレ雌”の追跡調査も実施したい。今回は、個体群の成熟過程の分布様式が中心だったので、下山については気温の低下による各個体単独での下山とし考慮し、連結状態での下山については調べていない。成熟個体は連結して下山している可能性もある。“アブレ雌”の存在を考えると、アキアカネは性比が雌に偏っていて、雄はその際なるべく長距離の飛翔に負担のかからない小型の雌を選んでいる、つまり雄に選ばれない大型の雌が残されているとも考えられるが、この点も調べる価値はありそうである。今後はこの点についても吟味する必要がある。

参 考 資 料

- 新井 裕. 1982. 埼玉県トンボ観察記 65-70
- 枝 重夫. 1976. トンボの採集と観察 ニュー・サイエンス社, 東京.
- May, M. L., 1976. Thermoregulation and adaptation to temperature in dragonflies (Odonata : Anisoptera). Ecol. Monogr. 46:1-32.
- 田口正男・渡辺 守. 1984. 谷戸水田におけるアカネ属数種の生態学的研究.
 I. 成虫個体群の季節消長. 三重大学教育学部研究紀要, 35(自然科学): 69-76.
- ・———. 1986. 谷戸水田におけるアカネ属数種の生態学的研究.
 III. アキアカネの個体群動態. 三重大学教育学部研究紀要, 37(自然科学): 69-75.
- 田 中 正. 1985. アキアカネの移動. インセクト. 36, 1:1-9.
- 石澤 直也. 1988. トンボの雌は重心を配慮した形態をしているか?.
 寄せ蛾記. 51:856-863.

(いしざわ なおや 画359 所沢市山口 1644-15)

.....

所沢市山口のトンボについて

石澤直也

.....

所沢市のトンボについては、三ヶ島地区の早稲田大学建設予定地内で談話会が1983年に行った調査で、8科12種を記録(30-VI-1984 寄せ蛾記 Supplement 2 pp.23~24)した。筆者は狭山湖の東側の山口地区を主として1984年から調査を続けているが、今回まとめて発表することにした。(目撃)記録以外はすべて写真撮影で種の確認を行った。各種の確認記録の記載は初見のみとした。

均翅亜目 Zygoptera

イトトンボ科 Agrionidae

1. キイトトンボ *Ceriagrion melanurum* SELYS 1♂ 24-VIII-1986
現在まで♂4頭が菩提樹池周辺で見られたのみで少ない。
2. アジアイトトンボ *Ischnura asiatica* BRAUER 1♀ 24-V-1987
田圃がある割には極めて少ない。

アオイトトンボ科 Lestidae

1. ホソミオツネイトンボ *Indolestes peregrinus* RIS 1♂ 2-XI-1985
狭山湖周辺とそこから約2Km離れた雑木林で見られた。
2. オオアオイトトンボ *Lestes temporalis* SELYS 1♂ 3-VI-1985
菩提樹池周辺でしか見ていない。

不均翅亜目 Anisoptera

オニヤンマ科 Cordulegasteridae

1. オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* SELYS 1♂ 30-IX-1984
住宅街にも飛来して結構多い。

ヤンマ科 Aeschnidae

1. サラサヤンマ *Jagoria pryeri* MARTIN 1♂ 7-VI-1987
いままで1頭しか見ていない。6月7日は暑い日で日中の気温は30℃を越していたが、この個体は池の西側に隣接する雑木林の林床を低く縫うようにゆっくり飛んでいた。止まるときはいつも地上30cm位のところで、気温は地上1mと比較して1℃以上低かった。

2. ギンヤンマ *Anax parthenope julius* BRAUER 1♂ 15-VIII-1987(目撃)
次種同様少なく、菩提樹池周辺で見られる。
3. クロスジギンヤンマ *Anax nigrofasciatus* OGUMA 1♂ 1♀ 7-VI-1987
トンボ科 Libellulidae
1. シオカラトンボ *Orthetrum albistyrum speciosum* UHLER 1♀ 3-VII-1984
菩提樹池周辺では縄張が形成できないほど多い。
2. シオヤトンボ *Orthetrum japonicum japonicum* UHLER 1♂ 3-VI-1985
狭山丘陵の谷筋の池は周囲が雑木林なので結構本種が見られる。
3. オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare melania* SELYS 3♂ 31-VII-1984
シオカラトンボよりは少ないが、多い部類にはいる。
4. ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata asahinai* SCHMIDT 20-V-1987
1987年に初めて見られた。
5. ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia* DRURY 1♂ 4-VIII-1985
次種と同じく少なく、毎年1~2頭見られる程度。
6. ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* SELYS 1♂ 15-VIII-1987
7. アキアカネ *Sympetrum frequens* SELYS 1♀ 23-IX-1984
狭山湖周辺で多く見られ、比較的大型である。
8. ヒメアカネ *Sympetrum parvulum* BARTENF 1♀ 26-VIII-1984
湿地帯に多く発生、夏場は付近の雑木林の中に退避しているのが良く見られる。
1987年は発生が遅くなっている。
9. マユタテアカネ *Sympetrum eroticum eroticum* SELYS 1♀ 10-IX-1986
いままで1頭しか見ていない。
10. リスアカネ *Sympetrum risi risi* BARTENF 1♂ 4-VIII-1985
前種と同じく少ないが、三ヶ島の別所沼では2♂を見ている。
11. ウ斯巴キトンボ *Pantala flavescens* FABRICIUS 3♂ 27-IX-1984
空き地で良く飛んでいるのが見られる。1987年は飛来数は多いようだ。
12. コシアキトンボ *Oseudothemis zonata* BURMEISTER 1♀ 24-VIII-1986
1頭しか見ていない。

以上5科20種が記録されたが、今後はヤンマやサナエトンボ等もう少し記録は増えると思われる。

埼玉県産ハネカクシ科分布資料〔3〕

小田 博

記載方法は前回と同様であるが、ヒゲトハネカクシ亜科の配列については、安立(1957)にもとづいた。今回までで本県のハネカクシを131種記録することができたが、追加種等は次回以降に譲りたい。日頃より何かとお世話いただく柴田泰利氏ならびに貴重な標本を快く提供された佐々木和男氏に深謝申し上げます。

シリホソハネカクシ亜科 TACHYPORINAE

101. *ハラグロキノコハネカクシ *Lordithon bicolor* (GRAVENHORST, 1806)
【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 1. x. 1984 [シジの1種].
【秩父郡横瀬町】丸山, 1頭, 21. ix. 1987 [朽木].
102. *ウスモンキノコハネカクシ *Lordithon breviceps* (SHARP, 1888)
【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 1. x. 1984 [シジの1種].
103. *チビクロモンキノコハネカクシ *Lordithon niponensis* (CAMERON, 1933)
【秩父郡荒川村】熊倉山, 2頭, 18. ix. 1983 [軟質キノコ].
104. *クロモンキノコハネカクシ *Lordithon semirufus* (SHARP, 1888)
【飯能市】伊豆ヶ岳, 3頭, 28. ix. 1984 [カラタケの1種].
【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 17. vi. 1985 [樹皮下].
105. *カタモンキノコハネカクシ *Bolitobius setiger* (SHARP, 1874)
【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 22. vi. 1987 [搦い網採集].
106. *クロゲヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus armatus* (SHARP, 1888)
【秩父郡横瀬町】二子山, 3頭, 28. viii. 1984 [軟質キノコ].
107. *フタモンヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus bipustulatus* (GRAVENHORST, 1802)
【秩父郡大滝村】矢竹沢, 2頭, 30. vii. 1984 [カノシカケの1種].
108. *オオヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus fimbriatus* (SHARP, 1888)
【秩父郡大滝村】矢竹沢, 1頭, 11. vi. 1984 [カノシカケの1種].
109. *ムクゲヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus germanus* (SHARP, 1874)
【秩父郡横瀬町】二子山, 1頭, 28. viii. 1984 [カノシカケの1種].
110. *ヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus tibialis* (SHARP, 1888)
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 11. viii. 1982 [カノシカケの1種].
【所沢市】中富, 1頭, 8. x. 1984 [キノ].
【秩父郡横瀬町】二子山, 1頭, 28. viii. 1984 [カノシカケの1種].
【富士見市】上沢3丁目; 4頭, 19. ix. 1985 [カラタケの1種].

111. *クロヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus varicornis* (SHARP, 1888)
【秩父郡大滝村】矢竹沢, 1頭, 11. vi. 1984 [カワシカの1種].
112. クロズシリホソハネカクシ *Tachyporus celatus* SHARP, 1874
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 31. iii. 1983 [落葉下・篩法];
東原, 6頭, 12. v. 1983 [腐植質].
【比企郡小川町】菖蒲沢沼, 2頭, 14. iv. 1985 [落葉下].
113. キベリシリホソハネカクシ *Tachyporus orthogrammus* SHARP, 1888
【秩父郡横瀬町】二子山, 1頭, 24. iii. 1985 [倒木樹皮下].
114. クロツヤマルクビハネカクシ *Tachinus punctiventris* SHARP, 1888
【秩父郡大滝村】三峰山, 1頭, 19. vi. 1983 [落葉下・篩法].
【秩父郡荒川村】熊倉山, 5頭, 1. x. 1984 [軟質キノ].
【秩父郡横瀬町】二子山, 1頭, 23. ix. 1986 [倒木樹皮下].
115. コクロマルクビハネカクシ *Tachinus diminutus* SHARP, 1888
【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 29. iv. 1984 [糞]; 2頭, 1. v. 1984
[糞].
【狭山市】柏原・智光山公園, 1頭, 1. ii. 1987 [アヲカの屍体].
116. *クロズマルクビハネカクシ *Tachinus nigriceps* SHARP, 1888
【秩父郡大滝村】入山, 2頭, 25. vii. ~ 5. viii. 1980 [腐肉採集: 佐々
木和男氏採集].

ヒゲブトハネカクシ亜科 ALEOCHARINAE

117. *エビイロマルムネハネカクシ *Myllaena japonica* SHARP, 1888
【秩父郡大滝村】三峰山, 1頭, 19. vi. 1983 [落葉下]; 秩父湖, 1頭,
14. vii. 1983 [落葉下]; 入川林道, 2頭, 26. vii. 1983 [落葉下].
【秩父郡荒川村】熊倉山, 7頭, 18. ix. 1983 [落葉下].
118. *ヤマトヒラタキノコハネカクシ *Gyrophaena niponensis* CAMERON, 1933
【秩父郡大滝村】大血川, 1頭, 27. viii. 1983 [シメジの一種].
【秩父郡荒川村】熊倉山, 3頭, 18. ix. 1983 [軟質キノ]; 20頭, 26. vii.
1984 [軟質キノ]; 6頭, 1. x. 1984 [軟質キノコ].
119. *コゲチャクチキハネカクシ *Tachyusida velox* SHARP, 1888
【入間郡越生町】高取山, 2頭, 18. iv. 1983 [朽木].
120. *ミイロチビハネカクシ *Phymatura japonica* CAMERON, 1933
【秩父郡荒川村】熊倉山, 4頭, 1. x. 1984 [軟質キノ].
121. *ハラモンムネクボハネカクシ *Bolitochara varipes* SHARP, 1888
【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 1. x. 1984.
122. クロセミゾハネカクシ *Falagria sulcata* (PAYKULL, 1789)
【秩父郡大滝村】三峰山, 2頭, 30. vi. 1984 [腐敗動植物質]; 川又,
1頭, 24. viii. 1985 [灯火採集].

123. *キバネセミゾハネカクシ *Stenagria sapida* (SHARP, 1874)
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 31. viii. 1982 [街灯]; 1頭,
 16. x. 1982 [腐植質]; 大井宇東原, 1頭, 12. v. 1983 [腐植質].
 【秩父郡荒川村】白久, 9. v. 1983 [落葉下].
124. *ホソクロチビハネカクシ *Tachyusa coarctata* ERICHSON, 1837-39
 【浦和市】秋ヶ瀬公園, 10頭, 23. ix. 1981 [湿地・枯草下].
 【富士見市】水子, 3頭, 6. iv. 1983 [湿地・枯草下].
125. *ツヤケシキバネチビハネカクシ *Atheta sordida* (MARSHAM, 1802)
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 26. vii. 1984 [軟質朽].
126. *セビロチビハネカクシ *Thamiaraea japonica* CAMERON, 1933
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 29. v. 1982 [樹液].
127. *モンクロアリノスハネカクシ *Zyras opatatus* (SHARP, 1888)
 【秩父郡大滝村】川又, 1頭, 24. viii. 1985 [灯火採集].
128. クビアカアリノスハネカクシ *Zyras pictus* (SHARP, 1874)
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 31. vii. 1983 [街灯]; 2頭,
 2. viii. 1983 [腐植質].
129. *ナカアカヒゲブトハネカクシ *Aleochara curtula* GOEZE, 1777
 【秩父郡大滝村】入山, 2頭, 25. vii. ~ 5. viii. 1980 [腐肉採集: 佐々
 木和男氏採集].
130. コクロヒゲブトハネカクシ *Aleochara parens* SHARP, 1874
 【入間郡大井町】大井宇東原, 1頭, 21. ix. 1981 [腐植質]; 1頭, 6. x.
 1981 [腐植質]; 大井・弁天の森, 2頭, 19. x. 1981 [腐植質].
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 3. v. 1984 [糞]; 1頭, 27. iv. 1987
 [腐植質]; 1頭, 20. vi. 1987.
 【秩父郡大滝村】三峰山, 1頭, 16. viii. 1984 [VEの屍体].
131. *フタモンゲブトハネカクシ *Aleochara bipustulata* (LINNÉ, 1761)
 【秩父市】下影森, 4頭, 15. ii. 1987 [糞].

〈付記〉 前回[本誌(50):883]記録したNo.82-No.84の種はいずれも *Staphylinus* 属の *Platydracus* 亜属より独立したので, つぎの通り属名が変更となる [直海俊一郎(1986), 昆虫と自然21(2):31].

- No.82. ドウガネハネカクシ *Platydracus circumcinctus* (BERNHAEUER, 1914)
 No.83. クロガネハネカクシ *Platydracus inornatus* (SHARP, 1874)
 No.84. アカバハネカクシ *Platydracus paganus* (SHARP, 1874)

浦和市三室で採集した蛾

—高層住宅に飛来した蛾、1987年4月～12月の記録—

利根川 雅実・市川 和夫

北浦和駅から北宿通りを東へ約3kmの所に位置する9階建ての高層住宅で採集を行った。近くには雑木林などが残っているため夏にはカブトムシやノコギリクワガタなどが灯火に飛来する。

9月26日の記録は夜間1階から9階まで、廊下と二つの階段をまわり採集した。それ以前は気が付いたものだけで、10月からは午後8時から11時の間にエレベーターホール脇きの階段を1階から8階まで、ほとんど毎日調査した。()内は採集時間と採集した階である。

9月26日の採集には長谷部崇くん(小5)、利根川雄也(小3)の協力があった。

※ 科ごとの種類数

ハマキガ科 1	シャクガ科 10	スズメガ科 3
マダラガ科 1	カレハガ科 1	ドクガ科 2
メイガ科 9	シャチホコガ科 1	ヒトリガ科 1
カギバガ科 1	ヤマユガ科 1	ヤガ科 13

総計 12科 44種

ハマキガ科 Tortricidae

- 1 チャハマキ *Homona magnanima* DIakonoff 1♂ 26-IX

マダラガ科 Zygaenidae

- 1 ホタルガ *Pidorus glaucopis atratus* BUTLER lex. 8-VII, lex. 3-X

メイガ科 Pyralidae

- 1 シロオビノメイガ *Hymenia recurvalis* (FABRICIUS) 4exs. 26-IX
- 2 コブノメイガ *Cnaphalocrocis medianlis* (GUENEÉ) 6exs. 26-IX
- 3 マエアカスカシノメイガ *Palpita nigropunctalis* (BREMÉR) lex. 23-IV, 1♀ 26-IX
- 4 マメノメイガ *Maruca testulalis* (HÜBNER) 1♀ 26-IX
- 5 ツマアカシマノメイガ *Orthopygia nannodes* (BUTLER) 8exs. 26-IX
- 6 トビイロシマノメイガ *Hypsopygia regina* (BUTLER) 1♀ 26-IX
- 7 カバイロトガリメイガ *Endotricha theonalis* (WALKER) 1♀3♂ 26-IX
- 8 キモントガリメイガ *Endotricha kuznetzovi* WHALLEY lex. 26-IX
- 9 キムジノメイガ *Prodsyncnemis inornata* BUTLER lex. 26-IX

カギバガ科 Drepanidae

- 1 クロスジカギバ *Oreta turpis* BUTLER 2exs. 26-IX

シャクガ科 Geometridae

- 1 カギバアオシャク *Tanaorhinus recisrocata confuciarum* (WALKER) lex. 4-VI
- 2 キバラヒメアオシャク *Hemithea aestivaria* (HÜBNER) lex. 3-VI
- 3 ヨツモンマエジロアオシャク *Comibaena procumbaria* (PRYER) lex. 26-IX
- 4 ヌウマダラエダシャク *Adraxas miranda miranda* BUTLER lex. 26-IX
- 5 チャノウンモンエダシャク *Jankowskia fuscaria fuscaria* (LEECH) lex. 26-IX
- 6 クロクモエダシャク *Apocheora rimosa* (BUTLER) lex. 26-IX

- 7 コガタツバメエダシャク *Ourapteryx obtusicauda* (WARREN) lex. 26-IX
 8 ウスキクロテンヒメシャク *Scopula ignobilis* (WARREN) 1♀ 26-IX
 9 オオウスモンキヒメシャク *Idaea imbecilla* (INOUE) 2EXS. 26-IX
 10 チャエダシャク *Megabiston plumosaria* (LEECH) 2♂ 27-XI

カレハガ科 Lasiocampidae

- 1 マツカレハ *Dendrolimus spectabilis* (BUTLER) lex. 8-VII

シャチホコガ科 Notodontidae

- 1 セダカシャチホコ *Rabta cristata* (BUTLER) lex. 5-VII

ヤママユガ科 Saturniidae

- 1 オオミズアオ *Actias artemis* (BREMER et GREY) lex. 10-V, lex. -VII

スズメガ科 Sphingidae

- 1 ウンモンズズメ *Callambulyx tatarinovii gabyae* BRYK lex. 5-VII
 2 ホシヒメホウジャク *Aspledon himachala sangaica* (BUTLER) lex. 26-IX
 3 キイロスズメ *Theretra nessus* (DRURY) lex. 23-VIII

ドクガ科 Lymantriidae

- 1 ウチジロマイマイ *Parocneria furva* (LEECH) 1♀ 26-IX
 2 ヒメシロモンドクガ *Orgyia thyellina* BUTLER lex. 26-IX

ヒトリガ科 Arctiidae

- 1 オビヒトリ *Spilosoma subcarneum* WALKER lex. 4-VI

ヤガ科 Noctuidae

- 1 ウスムラサキクチバ *Ericcia pertendens* (WALKER) lex. 17-IV (8F)
 2 オオシマカラスヨトウ *Amphipyra monolitha surnia* FELDER & ROGEN lex. 7-VII
 3 アウヨトウ *Pseudaletia separata* (WALKER) 1♂ 26-IX
 4 ネスジキノカワガ *Characoma ruficirra* (HAMPSON) lex. 26-IX
 5 ウリキンウワバ *Anadevidia peponis* (FABRICIUS) 1♂ 26-IX
 6 オオシラナミアツバ *Hipoepa fractalis* (GUENÉE) lex. 26-IX
 7 ムラサキアツバ *Diomea cremata* (BUTLER) lex. 26-IX
 8 リンゴケンモン *Triaena intermedia* (WARREN) lex. 26-IX
 9 カラフトゴマケンモン *Panthea coenobita idae* (ESPER) 1♂ 26-IX*
 10 ニッコウアオケンモン *Nocna malachchitis* OBERTHÖR 1♂ 26-IX*
 11 タバコガ *Helicoverpa assulta assulta* (GUENÉE) lex. 27-IX
 12 オオウンモンクチバ *Mocis undata* (FABRICIUS) lex. 27-IX
 13 ノコメトガリキリガ *Telorta divergens* (BUTLER) 1♀ 29-XI, 1♂ 15-XII (20:20, 6F)

なお、*は寄せ蛾記51号に発表した。

(とねがわ まさみ ☎ 336 浦和市三室 1218-3-807)

(いちかわ かずお ☎ 336 浦和市南本町 2-7-11)

北本市石戸宿でミヤマセセリを採集

齊藤 章

筆者は、北本市石戸宿において、ミヤマセセリを採集したので報告する。なお、本種は、当会が1985～86年にかけて同地でおこなった昆虫類の調査では未発見の種である。

採集個体：ミヤマセセリ *Erynnis montanus* Bremer 1♀(汚損度中位)

採集日：1988年5月1日 採集者：齊藤 章

同地においては、昨年のも今シーズンも本種を発見すべく丹念に調査を続けたが、確認できたのは上記の1頭のみであった。

(さいとう あきら [上尾高校生物部] 画362 上尾市浅間台1-6-1 埼玉県立上尾高校)

北本市石戸宿でジャコウアゲハを採集

碓井 徹

筆者は、北本市石戸宿において、ジャコウアゲハを採集したので報告する。なお、本種は、当会が1985～86年にかけて同地でおこなった昆虫類の調査では未発見の種である。

採集個体：ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous* Klug 1♀(汚損個体)

採集日：1987年8月12日 採集者：碓井 徹

(うすい とおる 〒362 上尾市壺丁目454-3)

上尾市でウラナミアカシジミを採集

碓井 徹

筆者は、上尾市中分にてウラナミアカシジミを採集したので報告する。

採集個体：ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata* Hewitson 1♂(新鮮個体)

採集日：1988年6月6日 採集者：碓井 徹

(うすい とおる 〒362 上尾市壺丁目454-3)

【訂正】

寄せ蛾記 51号 p.876 『コアシナガバチの巣は冬でも危険：星野正博』

本文 2行目。 1988年 ⇨ 1987年

ミドリシジミを『埼玉県の蝶』に指定する（提案）

埼玉昆虫談話会

昭和30年頃より、我が国では急速な近代化や人口増により、野生生物の生息環境が圧迫され、貴重な動植物が姿を消しつつある。いっぽう自然の大切さが見直され、県の木、県の鳥、市の花などを制定する地方自治体が増えている。蝶については昭和32年に日本昆虫学会がオオムラサキを『国蝶』とした。

わたしたち昆虫が好きな者の集まりである埼玉昆虫談話会は、ふるさとに住む多くの蝶のなかからミドリシジミをとりあげ、本日これを『埼玉県の蝶』に指定することにした。

ミドリシジミの幼虫はハンノキの葉を食べて育つ。ハンノキの自生する低湿地は都市化の影響を受けて消滅した。

埼玉県には、浦和市の県立秋ヶ瀬自然公園をはじめ、荒川低地、見沼低地など都市に隣接してかなりのハンノキ林が現存する。さらに、耕作をしない水田跡地では、草地からハンノキの幼樹林へと遷移が進行中のところがあり、そこもミドリシジミの生息域となってきた。また、比企丘陵などの湿地にもハンノキ林が随所にあり、ミドリシジミの美しい姿を見ることができ、三峰山などの秩父山地のヤマハンノキの自生地にも分布している。

このように県内各地にハンノキ林があり、そこにミドリシジミが生息していることは、埼玉県が誇ることのできる素晴らしい自然の一つである。

コナラやクヌギの雑木林が昆虫や野鳥の天国であることは一般に知られているが、ハンノキ林も動物の豊富な場所である。初夏のハンノキ林では、夕日を浴びて緑色に輝く雄、種々な斑紋を表す雌のミドリシジミが観察できる。

私達はこのミドリシジミを県民に紹介し、みんなで大切に見守って行くことを願って『埼玉県の蝶』に指定する。

1988年（昭和63年）4月3日 埼玉昆虫談話会

提案者 牧 林 功

寄 せ 蛾 記 5 2 号 目 次

井 上 寛	：いるま蛾報（3）	902
牧林 功 ・ 江村 薫	：埼玉県所沢市三ヶ島産半翅系昆虫類	904
石 澤 直 也	：アキアカネの垂直分布に規則性はあるか？	914
石 澤 直 也	：所沢市山口のトンボについて	922
小 田 博	：埼玉県産ハネカクシ科分布資料〔3〕	924
利根川 雅実 ・ 市川 和夫	：浦和市三室で採集した蛾	927
斉 藤 章	：北本市石戸宿でミヤマセセリを採集	929
碓 井 徹	：北本市石戸宿でジャコウアゲハを採集	929
碓 井 徹	：上尾市でウラナミアカシジミを採集	929
【 訂 正 】		929
埼玉昆虫談話会	：ミドリシジミを『埼玉県の蝶』に指定する	930
埼玉昆虫談話会総会	（総会資料）	931
会 報		933
編集後記		933